

福島地方環境事務所の最近の動き
(今週の福島)

【最近の動きのポイント】

- ・ 中川環境大臣が、内堀福島県知事・吉田福島県議会議長と福島で面会し、環境再生事業の状況について意見交換を行いました(8/2)。また、福島復興の新たなステージに向けた「福島再生・未来志向プロジェクト」を説明しました。なお、同プロジェクトについては、8月3日に公表を行っています。

○ 除染・廃棄物対策関連

- ・ 双葉町、大熊町、浪江町及び富岡町の特定復興再生拠点区域において、建物等解体撤去及び除染工事を実施中です

○ 中間貯蔵施設関連

- ・ 東北ハイウェイ・セーフティ作戦に伴う「ペースカー出発式」に輸送車両が参加しました(7/31)
- ・ 中間貯蔵施設情報サイトをリニューアルしました(8/3)
- ・ 平成 30 年度は 7 月末時点で約 36 万 m³の輸送を実施しました

<除去土壌等の輸送の進捗状況>

今年度の輸送対象物量	搬入済量 (7/31 時点)	進捗率
約 180 万 m ³	約 36.0 万 m ³	約 20.1%
累積の輸送対象物量	搬入済量 (7/31 時点)	進捗率
約 1,400 万 m ³	約 111.8 万 m ³	約 8.1%

○ リスクコミュニケーション等関連

- ・ 自治体職員や相談員等の活動の支援、住民の放射線に関する理解醸成の支援、環境再生等に関する情報発信等の活動を実施中です
- ・ 福島市市民会館において、福島市教職員対象の放射線教育研修会の支援を行いました (8/1)

0. 福島地方環境事務所

- 8月2日に、中川環境大臣が、内堀福島県知事・吉田福島県議会議長と福島で面会し、環境再生事業の状況について意見公開を行いました。また、福島復興の新たなステージに向けた「福島再生・未来志向プロジェクト」について説明しました。なお、同プロジェクトについては、8月3日に公表を行っています。
「福島再生・未来志向プロジェクト」については別添1のとおり

I. 除染・廃棄物対策関連

1 特定復興再生拠点区域の解体・除染について

帰還困難区域内における特定復興再生拠点区域において、各町村の策定した計画に基づき、家屋解体・除染等を実施しています。

- 最近の動き
 - ・双葉町、大熊町、浪江町及び富岡町において、建物等解体撤去及び除染工事を実施中です。
詳細は別添2、3、5のとおり

2 避難指示解除済み地域等の除染・廃棄物処理関連事業について

帰還困難区域を除き、3月に8県100市町村のすべてで面的除染が完了し、必要なフォローアップ等を実施しています。

各市町村において、必要な被災家屋等の解体等の廃棄物処理を実施しています。

仮置場で除去土壌・廃棄物等を保管しています。搬出が終わった仮置場については、順次、早期の解消を目指し原状回復を実施しているところです。

- 除染事業及び被災家屋等の解体等の実施状況(除染特別地域、汚染廃棄物対策地域)
別添2、3のとおり
- 仮設焼却施設における処理状況
別添6のとおり
- 特定廃棄物埋立処分施設への搬入状況
別添7のとおり

II. 中間貯蔵施設関連

中間貯蔵施設の整備及び除去土壌等の中間貯蔵施設への搬入を実施しています。

(1) 最近の動き

- 東北ハイウェイ・セーフティ作戦に伴う「ペースカー出発式」に輸送車両が参加

しました(7/31)。

別添8のとおり

- 中間貯蔵施設情報サイトをリニューアルしました(8/3)。

<http://josen.env.go.jp/chukanchozou/>

別添9のとおり

- 平成30年度は7月末時点で約36万m³の輸送を実施しました。
- 除去壤等の輸送の進捗状況

今年度の輸送対象物量	搬入済量(7/31時点)	進捗率
約180万m ³	約36.0万m ³	約20.1%
累積の輸送対象物量	搬入済量(7/31時点)	進捗率
約1,400万m ³	約111.8万m ³	約8.1%

(2) 平成30年度の進捗状況

- 除去土壌等の輸送

(7月31日までの搬入実績)

搬出市町村		今年度の搬出可能量(m ³)	今年度の学校等(現場保管)からの輸送予定量(m ³)	今年度の搬入済量(m ³)	累積搬入済量(m ³)
浜通り	いわき市	22,200	7,800	4,869	27,627
	相馬市	16,100	-	-	16,851
	南相馬市	113,200	-	8,401	36,463
	広野町	31,900	-	-	9,560
	檜葉町	72,400	-	29,166	54,622
	富岡町	162,400	-	30,017	73,466
	川内村	42,400	-	21,198	35,753
	大熊町	147,000	-	32,173	83,537
	双葉町	132,700	-	8,688	55,607
	浪江町	130,300	-	12,359	48,837
	葛尾村	71,400	-	11,388	27,915
	飯舘村	151,600	-	17,050	45,341
中通り	福島市	78,700	20,000	9,104	33,979
	郡山市	67,200	20,900	45,663	109,030
	白河市	33,800	100	12,944	37,405
	須賀川市	22,000	3,600	11,309	26,234
	二本松市	50,000	-	11,326	55,107
	田村市	47,800	300	9,908	36,398
	伊達市	62,600	6,000	10,225	31,143
	本宮市	20,600	-	7,806	31,091
	桑折町	19,200	-	-	16,634
	国見町	16,300	-	6,948	18,292
	川俣町	71,600	-	21,490	43,769

	大玉村	13,700	-	6,806	16,071
	鏡石町	0	300	-	7,530
	天栄村	16,100	-	955	10,626
	西郷村	54,900	-	13,079	34,143
	泉崎村	15,200	-	5,324	15,755
	中島村	6,400	-	5,827	14,054
	矢吹町	13,900	-	5,700	15,297
	三春町	24,400	-	-	14,189
	合計	1,728,000	59,000	359,723	1,118,388※

※ フレキシブルコンテナ等1袋の体積を1 m³と換算しています。

※ 中間貯蔵施設への搬入済量（2018年5月末時点）及び輸送待機量（焼却前の可燃物を含む仮置場等で保管している量（国直轄除染：2018年5月末時点、市町村除染：2018年3月末時点）及び仮設焼却施設等で減容化し保管されている量（国直轄除染：2018年5月末時点、市町村除染：2018年3月末時点））の合計量。

※ 10万Bq/kg超の廃棄物、その他現時点で定量的な推計が困難な帰還困難区域の除染等で発生した（発生することが見込まれる）除去土壌等は含まれていません。

※ 累積搬入済量の合計値には、2018年3月末時点で搬入が完了している市町村の搬入量が含まれているため、記載されている市町村の累積搬入済量の合計とは数字が一致しません。

○ 中間貯蔵施設及び周辺の空間線量率等

こちらから御確認ください(中間貯蔵施設及び周辺モニタリング(JESCO サイト))

<http://www.jesconet.co.jp/interim/operation/monitoring.html#hokanba>

○ 中間貯蔵施設に係る工事等について

工事等の一覧は別添4のとおり

Ⅲ. 放射線健康リスクコミュニケーション等関連

①自治体職員や相談員等の活動の支援、②住民の放射線に関する理解醸成の支援、③環境再生等に関する情報発信等の活動を実施中です。

(1) 最近の動き

○ 環境再生プラザにおいて専門家派遣・モニタリング支援（説明・測定・資料作成支援）・移動展示等を実施中です。

○ 富岡町において、ホールボディ・カウンタによる内部被ばく線量測定を実施しました(7/25～28)。

○ 福島市市民会館において、福島市教職員対象の放射線教育研修会の支援を行いました(8/1)。

別添10のとおり

○ 葛尾村において、ホールボディ・カウンタによる内部被ばく線量測定を実施します(8/5)。

- 郡山市において、放射線健康管理のための基礎研修（行政職向け）を開催します（8/6）。
- 福島市において、放射線の健康影響等に関する応用研修会（行政職向け）を開催します（8/9）。
- ガンマカメラ活用リスクコミュニケーション支援事業を実施中です。
- 環境再生プラザにおいて、夏休み期間中（7/21～8/31）「プラザ夏学習」と題した小中学生向けの放射線教室を実施中です。

(2) これまでの実施状況

(8月3日時点)

項 目		実施回数	
		H29 年度	今年度
① 自治体職員や相談員等の活動の支援	(ア) 職員向け研修会	77 回	22 回
	(イ) 専門家派遣	47 回	6 回
② 住民の放射線に関する理解醸成の支援	(ア) 住民セミナー	72 回	17 回
	(イ) 車座意見交換会	62 回	12 回
	(ウ) 個人線量測定の実施支援(WBC)	83 日	22 日
	(エ) リスクコミュニケーション拠点（長崎大、弘前大）による活動		
	(オ) ガンマカメラ活用リスクコミュニケーション支援事業	184 台・日	70 台・日
③ 環境再生等に関する情報発信（環境再生プラザ）	(ア) 専門家派遣	142 件	46 件
	(イ) 移動展示	42 件 [55 日]	14 件 [22 日]

(ウ) テレビ

- ・「なすびのギモン Part5」（全 8 回）を放送しました。
- ※Part1 から Part4 も含め、以下のホームページから視聴できます。
<http://josen.env.go.jp/nasubinogimon/movie/>
- ・特別番組「いのち、つなぐ 檜葉町・木戸川の今」を放送しました。

(エ) ラジオ

- ・「福島再生へのみち」（全 26 回（FM局 13 回、AM局 13 回））を放送しました。
- ※以下のホームページから視聴できます。
- FM局 http://josen.env.go.jp/plaza/radio_streaming/
- AM局 http://www.rfc.jp/podcast/podcast_program.php?program_id=29

(オ) まんが

- ・まんが「なすびのギモン」のシリーズ第 4 作「環境再生のあゆみ」編を作成しました。
- ※これまでの 3 作（「身の回りの放射性物質」編、「健康影響」編、「食品」編）も含め、以下のホームページから読むことができます。
<http://josen.env.go.jp/nasubinogimon/index.html#indexManga>

(カ) イベント

- ・「くるまざカフェ」および「ふくしま“みち”さがし」を実施しました。

※除染や福島環境再生に取り組む様々な方々と情報交換を行い、経験を共有する体験型のイベント（くるまざカフェ）と本イベントの参加者・関係者も交えたシンポジウム（ふくしま“みち”さがし）です。

<http://josen.env.go.jp/plaza/about/communication/kurumaza/>

(キ) 環境再生プラザの企画展示

「ふくしま“みち”さがし」をテーマに実施中です。

http://josen.env.go.jp/plaza/about/exhibition_180327.html

「福島」×「脱炭素・資源循環・自然共生」

2018年8月 環境省「福島再生・未来志向プロジェクト」チーム

基本的な考え方

- 福島県内の地元のニーズに応え、環境再生の取組のみならず、脱炭素、資源循環、自然共生といった環境省の得意分野と福島との連携を深め、福島復興の新たなステージに向けた取組を推進。
- 環境省事業を効果的に組み合わせ、また、放射線健康不安に対するリスクコミュニケーションや広報・情報発信を通じて地元寄り添いつつ、分野横断的な政策パッケージを戦略的に展開。

産業創生への支援

<なりわいの復興>

政府の「福島イノベーション・コースト構想」との連携のもと

- 環境・リサイクル分野における官民連携によるプロジェクトの具体化。
- 先端リサイクル技術の実証・実践。
- 先導的なバイオマスや再生可能エネルギーの技術実証やモデル事業の推進。等

上記のプロジェクトの実施により福島新エネ社会構想の加速化にも貢献

ふくしまグリーン復興への支援

<自然資源活用による復興>

- 福島県内の自然資源、文化資源等を活かしたエコツーリズムの支援やロングトレイルの検討。
- 磐梯朝日国立公園及び尾瀬国立公園の魅力向上。等



尾瀬沼ビジターセンター完成予想図

脱炭素まちづくりへの支援

<暮らしの復興>

- 先導的な脱炭素技術やICT技術を活用したまちづくり。
- 再生可能エネルギーの活用や脱炭素技術の導入を通じた、地域コミュニティの活性化、安全・安心の確保、高齢化社会への対応。等



環境省の得意分野との連携強化

環境再生・リスコミ

×

脱炭素・資源循環・自然共生

復興・再生に貢献

地域活性化への支援

<リスコミ・情報発信による復興>

- 放射線健康不安に対するリスクコミュニケーション。
- 地域の魅力発信や、シティープロモーションの後方支援。



檜葉町における田植イベントの様子



リプルンふくしま内観完成予想図

- リプルンふくしま等の環境省施設の活用や、環境創造センターとの連携、原子力災害からの復興の歩みを学ぶホープツーリズムの検討。等

推進体制

- 福島地方環境事務所に、これまでの環境再生の取組に加え、「福島再生・未来志向プロジェクト」をワンストップで推進する体制を構築。

除染事業及び被災家屋等の解体等の工事一覧
 (除染特別地域、汚染廃棄物対策地域)

市町村	工事名
南相馬市	<p>○平成 29 年度南相馬市環境復旧等工事 (H30/2/13~)</p> <p>※H30. 3 月に着工</p> <p>○平成 29 年度南相馬市建物解体等撤去工事 (H29/4/19~)</p> <p>※H29. 6 月に着工</p>
浪江町	<p>○平成 29 年度 (平成 28 年度繰越) 浪江町フォローアップ除染等工事 (H29/9/25~)</p> <p>※H29. 10 月に着工</p> <p>○平成 30 年度浪江町仮置場復旧等工事 (H30/5/15~)</p> <p>※H30. 7 月に着工</p> <p><u>○平成 30 年度浪江町特定復興再生拠点区域被災建物等解体撤去等及び除染等工事 (その 1) (H30/6/20~)</u></p> <p>※着工準備中</p> <p>○平成 29 年度浪江町建物解体等撤去工事 (H30/1/25~)</p> <p>※H30. 3 月に着工</p> <p>○平成 30 年度浪江町被災建物等解体撤去工事 (H30/4/11~)</p> <p>※H30. 6 月に着工</p> <p>○被災家屋等の解体撤去申請 (特定復興再生拠点区域) を受付中</p>
双葉町	<p><u>○平成 29 年度双葉町特定復興再生拠点区域被災建物等解体撤去等及び除染等工事 (その 1) (H29/12/4~)</u></p> <p>※H29. 12 月に着工</p> <p><u>○平成 29 年度双葉町特定復興再生拠点区域被災建物等解体撤去等及び除染等工事 (その 2) (H30/1/10~)</u></p> <p>※H30. 2 月に着工</p> <p>○平成 29 年度双葉町建物解体等撤去工事 (その 2) (H30/2/8~)</p> <p>※H30. 4 月に着工</p> <p>○被災家屋等の解体撤去申請を受付中</p>
大熊町	<p>○平成 29 年度大熊町仮置場復旧等工事 (H29/10/31~)</p> <p>※H30. 7 月に完了</p> <p><u>○平成 29 年度大熊町特定復興再生拠点区域被災建物等解体撤去等及び除染等工事 (その 1) (H30/1/25~)</u></p> <p>※H30. 3 月に着工</p> <p>○被災家屋等の解体撤去申請を受付中</p>

(注) 下線は特定復興再生拠点区域に係る解体・除染工事

市町村	工事名
富岡町	<p>○平成 29 年度(平成 28 年度繰越)富岡町除染等工事(夜の森地区他) (H29/5/22~)</p> <p>※H29. 6 月に着工</p> <p>○平成 29 年度(平成 28 年度繰越)富岡町フォローアップ除染等工 事 (H29/9/26~)</p> <p>※H29. 10 月に着工</p> <p>○平成 29 年度富岡町建物解体等撤去工事 (その 2) (H29/12/27~)</p> <p>※H30. 3 月に着工</p> <p>○被災家屋等の解体撤去申請 (特定復興再生拠点区域) を受付中</p>
檜葉町	<p>○平成 29 年度檜葉町仮置場復旧等工事 (H29/4/19~)</p> <p>※H29. 5 月に着工</p> <p>○平成 30 年度(平成 29 年度繰越)檜葉町仮置場復旧等工事(H30/7/5 ~)</p> <p>※着工準備中</p> <p>○平成 30 年度檜葉町建物解体等撤去工事 (H30/7/9~)</p> <p>※H30. 7 月に着工</p>
飯舘村	<p>○平成 30 年度 (平成 29 年度繰越) 飯舘村仮置場復旧等工事 (H30/4/10~)</p> <p>※H30. 4 月に着工</p> <p>○平成 30 年度飯舘村建物解体等撤去工事 (H30/4/13~)</p> <p>※H30. 6 月に着工</p> <p>○被災家屋等の解体撤去申請 (特定復興再生拠点区域) を受付中</p>
川俣町	<p>○平成 29 年度川俣町可燃物処理等整備工事 (H29/8/8~)</p> <p>※H29. 8 月に着工</p> <p>○平成 30 年度 (平成 29 年度繰越) 川俣町仮置場復旧等工事 (H30/6/29~)</p> <p>※H30. 6 月に着工</p>
葛尾村	<p>○平成 30 年度(平成 29 年度繰越)葛尾村仮置場復旧等工事 (その 2) (H30/6/20~)</p> <p>※H30. 7 月に着工</p> <p>○被災家屋等の解体撤去申請 (特定復興再生拠点区域) を受付開始 (H30/8/1~)</p>

(注) 下線は特定復興再生拠点区域に係る解体・除染工事

各市町村における被災家屋等の解体進捗状況

(平成30年7月末時点)

平成30年8月3日

市町村	解体受付 申請件数 ※	解体済件数	解体申請 受付状況
南相馬市	2,638	2,621	受付終了
浪江町	3,771	2,039	特定復興再生 拠点区域受付中
特定復興再生拠点区域	0	0	
双葉町	379	35	受付中
特定復興再生拠点区域	350	14	
大熊町	601	162	受付中
特定復興再生拠点区域	511	85	
富岡町	3,060	2,302	特定復興再生 拠点区域受付中
特定復興再生拠点区域	249	125	
楡葉町	1,577	1,428	受付終了
飯舘村	1,406	1,009	特定復興再生 拠点区域受付中
特定復興再生拠点区域	42	0	
川俣町	329	327	受付終了
葛尾村	421	364	特定復興再生 拠点区域受付中
特定復興再生拠点区域	0	0	
田村市	19	19	受付終了
川内村	102	102	受付終了

※当初申請数から取下げ件数を除いた件数

中間貯蔵施設に係る工事等の一覧

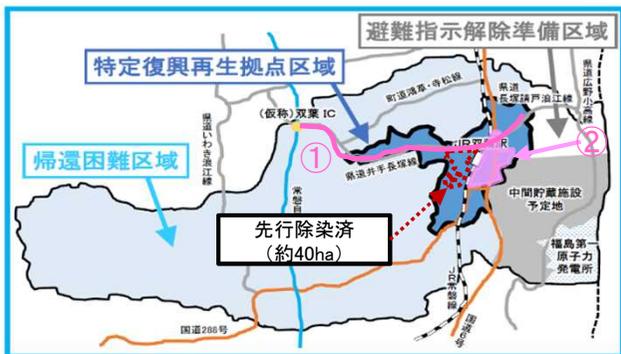
	工事名
土壌貯蔵 施設等	○平成 28 年度中間貯蔵施設の土壌貯蔵施設等工事(双葉町) (H28/ 6/14～) ※H28. 11 月に着工、H29. 12 月貯蔵開始
	○平成 28 年度中間貯蔵施設の土壌貯蔵施設等工事(大熊町) (H28/ 6/14～) ※H28. 11 月に着工、H29. 10 月貯蔵開始
	○平成 29 年度中間貯蔵(双葉 1 工区)土壌貯蔵施設等工事 (H29/ 5/11～) ※H29. 10 月に着工、今年度夏以降に貯蔵開始見込み
	○平成 29 年度中間貯蔵(双葉 2 工区)土壌貯蔵施設等工事 (H29/ 5/18～) ※H30. 1 月に着工、今年度冬以降に貯蔵開始見込み
	○平成 29 年度中間貯蔵(大熊 1 工区)土壌貯蔵施設等工事 (H29/ 5/11～) ※H29. 11 月に着工、H30. 7 月 13 日から受入・分別施設の運転開 始、7 月 19 日から貯蔵開始
	○平成 29 年度中間貯蔵(大熊 2 工区)土壌貯蔵施設等工事 (H29/ 5/11～) ※H29. 9 月に着工、H30. 7 月 17 日から受入・分別施設の運転開 始、7 月 18 日から貯蔵開始
	○平成 29 年度中間貯蔵(大熊 3 工区)土壌貯蔵施設等工事 (H29/ 5/18～) ※H29. 11 月に着工、H30. 7 月 14 日から受入・分別施設の運転開 始、9 月に貯蔵開始見込み
	○平成 30 年度中間貯蔵(双葉 3 工区)土壌貯蔵施設工事 (H30/ 4/6～) ※今年度中に着工予定
	○平成 30 年度中間貯蔵(大熊 4 工区)土壌貯蔵施設等工事 (H30/ 4/5～) ※今年度中に着工予定
	○平成 30 年度中間貯蔵(大熊 5 工区)土壌貯蔵施設等工事 (H30/ 4/10～) ※今年度中に着工予定

	工事名
廃棄物 関連施設	○平成 29 年度双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物 処理その 1 業務（H30/3/1～） ※今年度中に着工予定、平成 31 年度内に稼働予定
	○平成 29 年度双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物 処理その 2 業務（H30/3/1～） ※今年度中に着工予定、平成 31 年度内に稼働予定
	○平成 29 年度中間貯蔵（双葉工区）廃棄物貯蔵施設工事（H30/ 3/9～） ※今年度中に着工予定、平成 31 年度内に稼働予定
	○平成 29 年度中間貯蔵（大熊工区）廃棄物貯蔵施設工事（H30/ 3/8～） ※今年度中に着工予定、平成 31 年度内に稼働予定
その他 施設等	○平成 29 年度中間貯蔵に係る焼却灰保管場設置等工事（大熊町・双 葉町）（H29/12/23～）
	○平成 29 年度保管場等整備工事（大熊町・双葉町）（H30/1/19～）
	○平成 30 年度中間貯蔵施設区域内他道路工事（H30 / 7 /19～）

特定復興再生拠点区域整備の状況(2018年8月3日時点)

- 福島復興再生特別措置法の改正(H29.5)により、将来にわたって居住を制限するとされてきた帰還困難区域内に、避難指示を解除し、居住を可能とする「特定復興再生拠点区域」を定めることが可能となった。
- 市町村長は、特定復興再生拠点区域の設定及び同区域における環境整備（除染やインフラ等の整備）に関する計画を作成。同計画を内閣総理大臣が認定し、復興再生に向けて計画を推進（計画認定から5年を目途に避難指示解除を目指す）。
- これまでに、以下6町村の計画が認定され、双葉町、大熊町、浪江町、富岡町で解体・除染工事に着工。

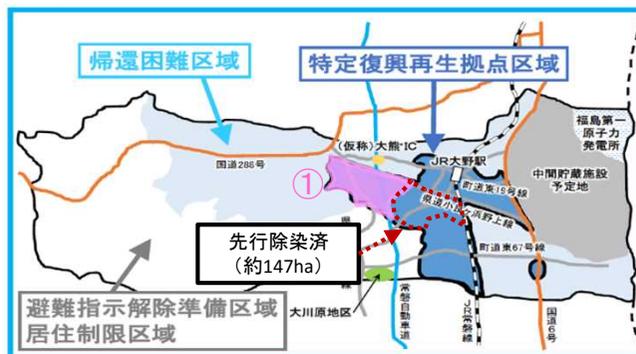
双葉町(2017.9.15認定、約560ha)



【工事状況】

- ①復興シンボル軸解体・除染工事
(解体55件、除染約7ha) : 12月25日着工
- ②駅東等解体・除染工事
(解体640件、除染約90ha) : 2月13日着工

大熊町(2017.11.10認定、約860ha)



【工事状況】

- ①下野上地区の西エリアを中心とした解体・除染工事
(解体460件、除染約160ha) : 3月9日着工

浪江町(2017.12.22認定、約660ha)



【工事状況】

- ①一部道路の除染工事(除染約4ha) : 5月30日着工

富岡町(2018.3.9認定、約390ha)



【工事状況】

- ①夜ノ森駅周辺の除染工事
(除染約0.3ha) : 7月6日着工

飯舘村(2018.4.20認定、約186ha)



【工事状況】解体・除染工事について調整中

葛尾村(2018.5.11認定、約95ha)



【工事状況】解体・除染工事について調整中

仮設焼却施設における処理状況

平成 30 年 8 月 3 日

立地地区	進捗状況	処理能力	処理済量 (除染廃棄物/災害廃棄物) (平成 30 年 6 月末時点)	排ガス中の 放射性物質 濃度	
				1号炉	2号炉
川内村	処理完了	7 t/日	約 2,000 トン (0 トン/約 2,000 トン)	—	—
飯館村 (小宮地区)	処理完了	5 t/日	約 2,900 トン (0 トン/約 2,900 トン)	—	—
富岡町	稼働中(平成 27 年 4 月より)	500 t/日	約 153,000 トン (約 99,000 トン/約 54,000 トン)	1号炉 —	2号炉 N. D.
南相馬市	稼働中(平成 27 年 4 月より)	400 t/日	約 179,000 トン (約 91,000 トン/約 88,000 トン)	1号炉 N. D.	2号炉 N. D.
葛尾村	稼働中(平成 27 年 4 月より)	200 t/日	約 104,000 トン (約 73,000 トン/約 31,000 トン)	N. D.	
浪江町	稼働中(平成 27 年 5 月より)	300 t/日	約 169,000 トン (約 71,000 トン/約 98,000 トン)	N. D.	
飯館村 (蕨平地区)	稼働中(平成 28 年 1 月より)	240 t/日	約 109,000 トン (約 74,000 トン/約 35,000 トン)	1号炉 N. D.	2号炉 N. D.
檜葉町	稼働中(平成 28 年 11 月より)	200 t/日	約 67,000 トン (約 38,000 トン/約 29,000 トン)	N. D.	
大熊町	稼働中(平成 29 年 12 月より)	200 t/日	約 24,000 トン (約 16,000 トン/約 8,000 トン)	N. D.	
双葉町	建設工事準備 中	300 t/日	—	1号炉 —	2号炉 —

※排ガス中の放射性物質濃度は直近の結果を記載。N. D. とは検出下限値未満（廃棄物関係ガイドラインに定める検出下限値（2Bq/m³）以下）であることを示している。

特定廃棄物埋立処分施設への搬入状況

平成 30 年 8 月 3 日

【最新の進捗状況】

搬入量（袋数）		
期間	実績（袋）	累計
7/25～7/31	917	30,214

※搬入は平日のみ実施しています。

※搬入量（袋数）は天候や調整状況により変動します。

【これまでの進捗状況】

搬入量（袋数）		
期間	実績（袋）	累計
平成 29 年 11 月	707	707
平成 29 年 12 月	2,746	3,453
平成 30 年 1 月	1,866	5,319
平成 30 年 2 月	2,523	7,842
平成 30 年 3 月	4,060	11,902
平成 30 年 4 月	4,965	16,867
平成 30 年 5 月	4,287	21,154
平成 30 年 6 月	5,615	26,769
平成 30 年 7 月 (31 日まで)	3,445	30,214

搬入状況や環境モニタリング結果など、特定廃棄物埋立処分事業の進捗状況については、ホームページにて公表しています。

http://shiteihaiki.env.go.jp/tokuteihaiki_umetate_fukushima/progress/

概要

- 7月31日に、東北自動車道飯坂ICで行われた、東北ハイウェイ・セーフティ作戦に伴う「ペースカー出発式」に輸送車両が参加しました。
- 引き続き、規制速度を遵守し、安全な輸送に努めてまいります。

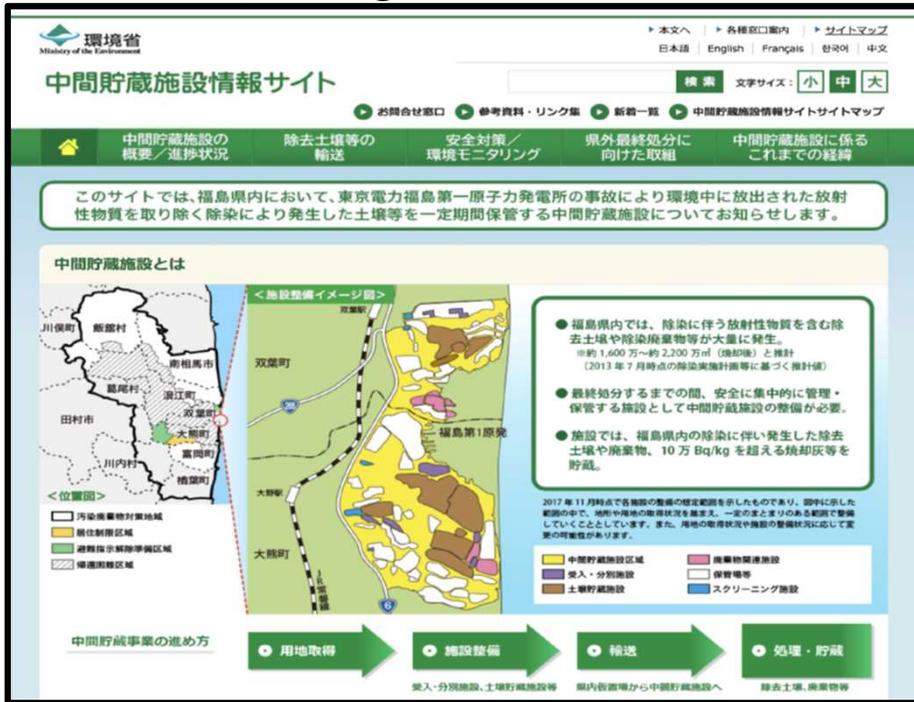


中間貯蔵 ペースカー
規制速度を守って走行中

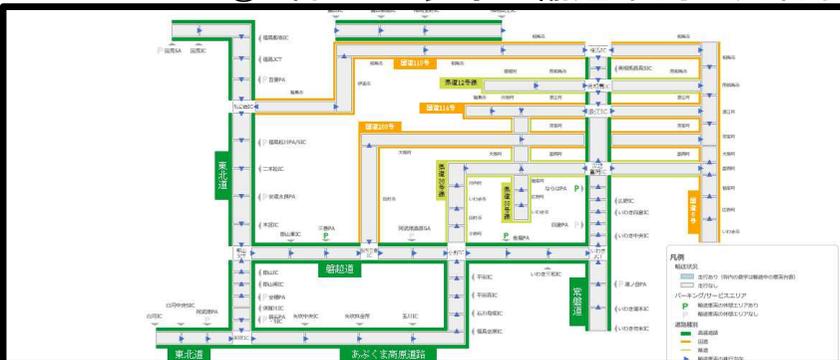
概要

- ・本日（8月3日）、中間貯蔵施設情報サイト（<http://josen.env.go.jp/chukanchozou/>）をリニューアルしました。
- ・中間貯蔵施設事業、県外最終処分に向けた取組に係る情報等を、全面的に更新しました。除去土壌等の輸送状況をグラフで確認できるようになったほか、輸送車両の走行状況をリアルタイムで見られるようになりました。

イメージ① トップページ

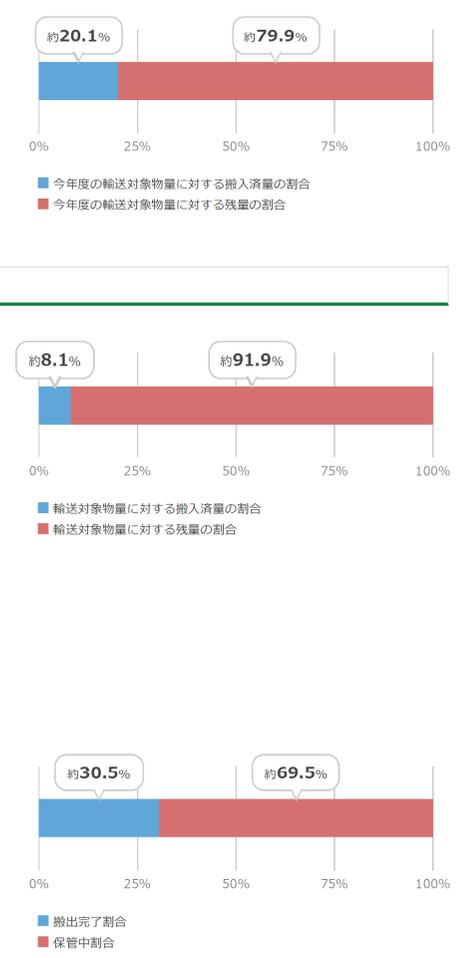


イメージ② 除去土壌等の輸送車両の走行状況



◀中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送車両を対象に、各区間を走行中の車両台数が表示されます。
※この画面はJESCOの総合管理システムの輸送監視画面とリンク

イメージ③ 除去土壌等の輸送状況



福島市における教員を対象とした放射線教育研修会

福島市教育委員会が主催する教員を対象とした放射線教育研修会の開催を、放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターと環境再生プラザが支援しました。

今回は、講義「放射線の基礎知識と福島市における放射線の現状」、実習「霧箱観察」「紙芝居」、震災当時に教育現場にいた方々によるパネルディスカッション、研修を振り返るワークショップ等から構成される『教師向け放射線授業のきっかけ作りプログラム』を実施しました。市内の小中学校教員約 80 名が参加し活発な議論が行われました。



講義「放射線の基礎知識と福島市における放射線の現状」



実習「紙芝居」



実習「霧箱による放射線観察」



研修を振り返るワークショップ